

シテ階級意識ヲ旺シナラシメ勞資間容易ニ超ユベ  
カラザル溝渠ヲ築クニ至レリ

如斯ニシテ我が労働運動界ハ思想的背景ヲ有シ  
ツ、而モ所謂思想團體トハ特立ノ運動ヲ續クル様  
勢ムルコトニヨリ急速ナル展開ヲ見タルト共ニ頗  
ル複雑ナル内容ヲ有スルモノトナレリ 今ヤ労働  
者ハ階級的自覚ニ立チ地位ノ向上ヲ圖ラントスル  
モノ漸次其数ヲ増シ之ヲ労働争議ノ採事事項ニ見

ルモ大正八年ニ於テハ主トシテ労働時間ノ短縮ヲ  
要求シ大正九、十年ニ入リテハ更ニ團體交渉権ノ確  
認工場委員制度ノ実施工場鉉山ニ於ケル労働者ノ  
福利施設要求トナリ尚進ニデハ労働者ノ産業管理  
ヲ主張スルモノアルニ至レリ

今同盟罷業ニ就テ之ヲ觀ルニ日清戦役後ニ於ケ  
ル明治三十年ヨリ同三十七年ニ至ル八年間ハ僅ニ  
百四十二件(年平均六件)、日露戦役後明治三十八年